



管理棟

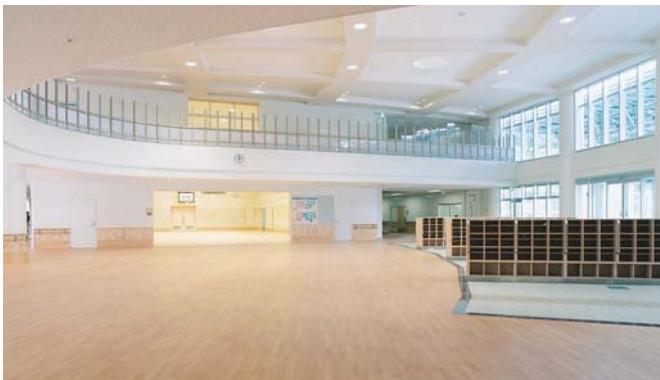
<設計趣旨>

県立総合養護学校は、肢体不自由児と知的障害児とともに学ぶ、石川県において初めての総合的な養護学校であり、障害の重度・重複化、多様化に対応し、子どもたち一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行う学校として計画された。

設計にあたり、障害のある子どもたちと地域の人々とが、この学校で出会い、ともに活動し、ふれあうことができる「地域交流」の場としてのコンセプトを充実させたほか、豊な学習環境を提供することで、子どもたちの主体性を引き出し、「ゆとりと潤い」、「学びの喜び」を感じ、生き生きと学習に取り組むことができるよう配慮した。さらに、障害のある子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、「安全でゆとりある学校」「明るく開放的な学校」「みどり豊な学校」を目指して、空間の活用や工夫を随所に施している。

<設計コンセプト>

- ・地域の人々との交流や、近隣の学校との交流、ボランティアとの交流や催しなど、多様な交流に 対応できる柔軟な学習空間のある学校とする。
- ・様々な学習形態や将来のニーズの変化に対応しやすいフレキシブルな構造・設備とする。
- ・学校のどの場所にも、柔らかな自然光や風が入る、健康で明るく、ゆとりある学習空間を創造する。
- ・法規制のバリアフリーは勿論、障害のある児童生徒が様々な学習活動を行いやすい、障害に配慮したバリアフリー化を図る。



管理棟：エントランスホール



管理棟：体育館



<バリアフリー配慮事項>

肢体不自由・支援棟

1. 動線空間

安全かつ円滑な移動を可能にするよう、出来るかぎり単純かつ明快な構成とした。

2. 廊下

ゆとりある廊下巾の確保。（管理棟メイン廊下：約4m、肢体不自由児校舎：約3.5m）

3. 階段・スロープ・エレベーター

階段・スロープ・エレベーターと多様な移動方法が選択できるように配置。スロープは安全な斜度（勾配1/15）、十分な幅（2.5m）を確保。

4. 小体育館・全天候型グラウンド

転倒してもケガのしにくいように弾力性のあるゴムチップ舗装としている。（ゴムチップはリサイクル製品を使用）

5. 屋内温水プール

大小プールには車椅子での使用を考慮した入水スロープを設置。

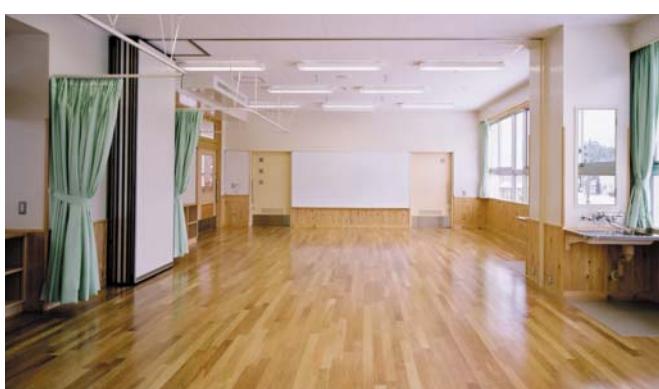
6. 食堂

車椅子やストレッチャーを使用しての食事、抱えられた状態での食事、特殊な補助用具を付けての食事等を考慮し、職員含め250人が利用できる広さ（約520m²）を確保。

7. トイレ

車椅子等の利用や介助を考慮し、ゆとりある広さを確保。

洗濯・シャワー室として温水シャワー等の洗浄設備を有する空間をトイレに付随して設ける。



肢体不自由・支援棟：クラスルーム



肢体不自由・支援棟：男子トイレ

●主要施設●



地域支援棟

＜棟別概要＞

・管理棟

本校の中心に位置し、エントランスホール、屋内プール、小体育館、食堂、管理諸室の機能を集約している。エントランスホールは肢体不自由校舎と知的障害校舎の交流の場として位置づけ、可動間仕切により隣接して設ける小体育館・プレイルームとの一体的な利用を可能にした。

・肢体不自由・支援棟

肢体不自由の児童生徒の普通教室をはじめとする教室・特別教室群を回廊型となる平面構成とし、中庭を設けている。

・地域支援棟

児童生徒や保護者の早期からの指導、相談や卒業生等の社会生活にともなう様々な悩みや生活上の課題等に関する相談のために設置する教育相談室等を設置した。利用者は主として外部からの利用となるため、利用者の動線を校舎とは独立して設けている。



地域支援棟：プレイルーム



地域支援棟：玄関ホール



スロープ



作品展示のギャラリーにもなるゆとりのある勾配と広さの安全スロープ。

中庭



車イステニスなど障害のある子のスポーツを育成する、全天候型の中庭テニスコート。

自立活動室



運動感覚機能の向上や補助具の開発を図るため、様々な機器を配置した空間。

フレキシブルな構造・設備：様々な学習形態や将来のニーズの変化に対応
バリアフリー化

：法規制のバリアフリーは勿論、障害のある児童生徒が様々な学習活動を行いやすいよう障害に配慮

快適通学

：正面玄関にキャノピーを設けることで天候に左右されない

交流の場

：エントランスホールは明るく開放感がある

ゆとりある学習空間

：学校のどの場所にも自然光や光が入り、明るく健康的

:床・壁タイル

DATA

金沢市南森本町地内
平成16年10月～平成18年1月
13,483m²

管理棟
RC造：2F
7,820m²

肢体不自由棟
RC・S造：2F
5,325m²

地域支援棟
RC造：1F
337m²